

# 今、取り組まなければ ならないことは、 「家族や地域」を拠り所に



人と人との絆を大切にしていきたい

また二つ目のポイントは、家族や地域の絆というものを拠り所にして、喜びややすらぎ、安全・安心のある生活基盤をつくりたいということです。

人は、家族や地域の絆の中で育まれ、恩師や先輩、仲間たちとの出会いを通じて成長します。その部分の人と人とのつながりを、今一度少し掘り下げ、温かく血の通ったものにするのができれば、大人にとっても子どもにとっても、もう少し生きやすい世の中になるのではないかと思います。

いじめや親と子との問題、家庭の崩壊などが大きな社会問題となっており、痛ましい事件が絶えません。手をこまねいては行かない状況です。行政が家族や心の問題の中にまで触れることはなかなか難しいのですが、避けては通れない問題であり、精神的側面からの「しあわせ実感」も市政の主眼にしていかなければなら

ないと考えています。

これは福祉行政であったり、地域づくりの行政であったり、教育行政であったり、いろいろな分野に関連してくるわけですが、そこを家庭の絆・地域の絆というキーワードのもとに、全体を結びつけて考えていきたいと思っています。

幸い、秋田市においてはまだまだ大きいいじめの問題などは起きていません。しかし、この先も秋田市が大丈夫だとは言えず、あらゆる角度からアプローチしていきたいと思っています。人間の絆を拠り所に問題を考えていくことは、今までの市政ではなかつた捉え方ではなかつたかと思えます。

## 西部市民 サービスセンター

### 今年いよいよ着工

さて、これまでも折りにふれ話してまいりました市民協働と都市内地域分権。その実現のための拠点施設となる「仮称西部地域市民サービスセンター」は、今年、いよいよ着工の予定です。

必要な機能などについては、地元西部地域でワークショップや地区説明会などを何回も開催し、話し合いを重ねてまいりました。その結果、昨年は建設基本計画がまとまり、現

在は、平成二十一年春のオープンをめざし実施設計を進めているところです。

基本機能となる新屋支所、西部公民館、コミュニケーションセンターの機能に加え、新たに地域防災や子育て支援、地域活動支援のための機能を兼ね備えます。

また、建物に関しては、地球環境に配慮し一部に風力エネルギーを利用するなどのエコの観点、さらには、建設費、維持管理費の双方を見据えたトータルコストの削減について、特に留意してまいりました。

西部市民サービスセンターは、今後市内七地域に整備する市民サービスセンターの第一号であり、今後のモデルでもあります。新屋・勝平・浜田・豊岩・下浜地区を擁する西部という地域特性を十分に生かしつつ、何よりも使い勝手がよく、未永く市民のみならず愛されるセンターをめざします。

## 46年ぶりに戻ってくる 秋田わか杉国体

終戦の翌年、昭和二十一年に、国民の希望と勇氣に明かりを灯そうと始まった「国民体育大会」。その第六十二回大会がいよいよ今年、秋田県で開催されます。



昨年の「兵庫のじぎく国体」開会式。(秋田魁新報社提供)  
秋田でも感動の開会式となることでしょう！



昨年の秋に雄和で行われた陸上競技のリハーサル大会

秋田で開催されるのは昭和三十六年の第十六回大会以来、実に四十六年ぶりです。当時、私は中学生で、八橋陸上競技場で見た開会式の感動は、今でも忘れられません。ポストンマラソン優勝の山田敬蔵選手(大館市出身)が炬火を手に競技場に現れ、スタンドの大観衆が見守る中、秋晴れの空の炬火台に点灯。本紙六ページでご覧いただけるような喜びに満ちた開会式となりました。

秋田県選手団は、各種目にわたって大活躍し、天皇杯(男女総合)が東京に次いで第二位、皇后杯(女子総合)が東京、愛知、大阪の大都市に次いで第四位という大健闘でした。秋田市出身の遠藤幸雄選手、小野清子選手らを擁した体操一般男女、ラグビーの秋田工業高校などが優勝しています。

約千七百人の選手、役員を受け入れたそうです。そこでの温かいもてなしが大評判となり、これが「秋田まごころ国体」と賞され、半世紀たった今も語り継がれています。

## 全国から1万2千人！ この機会をチャンスに

あれから四十六年。この秋に全国各地から秋田県に訪れる選手、役員、報道関係者らは総勢約五万人にのぼります。そのうち約一万二千人が秋田市に集まります。

平成十三年八月に開催された「第六回ワールドゲームズ秋田大会」でさえ、世界から秋田県に訪れた選手、役員は約三千二百人ほどでした。今回は秋田市分だけで一万二千人ですから、その規模の大きさがわかると思います。

とにかく日本全国からこの秋田市に一万二千人もの人たちが集まる機会は、一生の間にそうあるものではないかもしれません。秋田を初めて訪れるというかたも何万、何千人といえることでしょう。

一日約六千人が市内に宿泊しますから、大会期間の前後も含め約二週間の延べ人数にすると八万人にもなります。経済効果もかなりのものがあるでしょう。

国体はスポーツの祭典ですから、それに向けて厳しい練習に取り組んでいる選手たちには、秋田の誇りを胸に、精いっぱい頑張ってもらいたい。と同時に国体は、全国各地の人々の交流とふれあいの祭典でもあります。この機会を逃す手はありません。秋田の観光や物産、さまざまな資源を全国に発信できるまたとないチャンスです。

今回の広報で紹介しているように、ボランティアのかたがたをはじめ、多くの市民、県民、企業、各種団体のかたがたの協力のネットワークも広がっています。秋田の「まごころ」が再び全国の人たちの心に通じるよう、どうか温かいご協力をお願いいたします。

**秋田わか杉国体**  
君のハートよ位置につけ 第62回国民体育大会  
平成19年9月29日(土)～10月9日(火)

**秋田わか杉大会**  
きっと出える! 夢と感動 2007 第7回全国障害者スポーツ大会  
平成19年10月13日(土)～15日(月)